

教育実習を終えて [市立S中学校 英語] 氏名：H. Y

私は教育実習で三週間、母校である中学校に行きました。振り返ってみると本当にあっという間の三週間でした。短い間でしたが、この教育実習で私はたくさん大切なことを学びました。

私は二つの目標を持って実習に臨みました。一つ目は、「生徒たちにわかる授業をする」ことです。三週間という限られた時間ですが、教育実習生として母校へ受け入れていただいた私が、たくさん生徒たちに自分の思いを伝えられるのは、教室における毎回の授業だと思ったからです。そこで私は、「楽しくわかる授業」をすることを心がけ、生徒の学ぶ意欲につながる授業を目指し、一回一回の授業を大切に、日々寝る間を惜しんで授業準備を行いました。「本気で取り組めばきっと生徒たちに伝わる」と考え、生徒たちの笑顔のために、準備の段階で妥協することは一切考えませんでした。しかし、それだけの思いを込めて事前に準備をして授業に臨んでも、授業中は予期していないようなことがたくさん起こり、日々試行錯誤の繰り返しでした。生徒からの予想外の質問に困惑してしまったり、説明する時に生徒の方ではなく黒板に向かって話してしまったり、授業中に寝ている子を注意できなかつたりとたくさん失敗しました。失敗を経験するたびに、自分の教材研究の甘さや指導力のなさを痛感し、落ち込むこともありましたが、毎回授業後に、指導教諭の先生から助言をいただき、失敗の原因を考えて反省することで、次につなげるようにしていきました。私は授業を通して、教材研究に終わりがなかったことやクラスによって教え方を変えたり工夫したりすることの大切さを学びました。最後の授業が終わったあとに実施したアンケートでは、生徒のみなさんの素直な感想が綴られており、特に生徒たちが書いてくれた改善点の中には、普段指導教諭の先生からご指摘いただいていたことと同じことがいくつか見受けられました。生徒たちは先生のことをよく見ているなあ…と感じ、アンケートを見ながらできていなかったところを振り返って反省しました。授業アンケートは今後の自分の指導力向上にとっても参考になることがたくさん記されていたので、実施してよかったと思いました。

教育実習での目標の二つ目は、「生徒と積極的にコミュニケーションをとる」ことです。私は毎朝、風紀委員の生徒とともに正門前に立ち、登校してきた生徒たちに元気よく挨拶をしました。最初の頃は私が「おはようございます」と言っても、無視して素通りしていく生徒が多かったのですが、毎朝欠かさず続けていると、数人の生徒が「おはようございます」と返してくれるようになりました。たった一言の挨拶ですが、生徒たちに変化が見られてとても嬉しかったです。

担当クラスの1年5組は、明るく元気で人懐こい生徒が多かったため、生徒との関係づくりに困ることはほとんどなく、すぐにクラスのみんなと打ち解けることができました。私は、クラスの生徒全員の顔と名前を覚えるのはもちろんのこと、日々生徒の言動をよく観察し、気づいたことはノートにメモして一人ひとりの良いところを見つけるように心が

けました。また、昼食は毎日教室で生徒たちと一緒に食べました。生徒たちはそれぞれ仲の良い子同士グループになって食べていたのですが、私は特定のグループの生徒たちとばかり食べるのではなく、男子生徒にも自分から積極的に声をかけ、一緒に食べました。実際に生徒と関わっていて気づいたことは、どの子も「関わりをもってほしい」「自分のことを知ってほしい」という気持ちをもっていることです。そこで、特定の生徒とばかり接するのではなく、みんなと平等に接することを心がけました。男子も女子も「Y先生」と親しみを持って呼んでくれたことがとても嬉しかったです。私は一人っ子で兄弟がいないのですが、生徒一人ひとりがまるで自分の弟や妹であるかのように感じ、生徒をとっても愛おしく思いました。クラスの生徒たちと過ごした時間は、私の中で忘れられない大切な思い出となりました。

三週間という短い間でしたが、得られるものがたくさんあり、充実した毎日を過ごすことができました。実習を通してわかったことは、教師という仕事は、常にアンテナをはりめぐらせ、とても大変で忙しい仕事ですが、それ以上にとてもやりがいのある仕事である、ということです。そして、さまざまな生徒と向き合い、一人ひとりの生徒を受け止めるためには、自分自身が多くのことを経験し、人間としての幅を持たなければならないと感じました。今後は、残り少ない大学生活を有意義に過ごし、将来出会う生徒たちのために、自分自身を磨き、人間的に成長していきたいと思っています。